

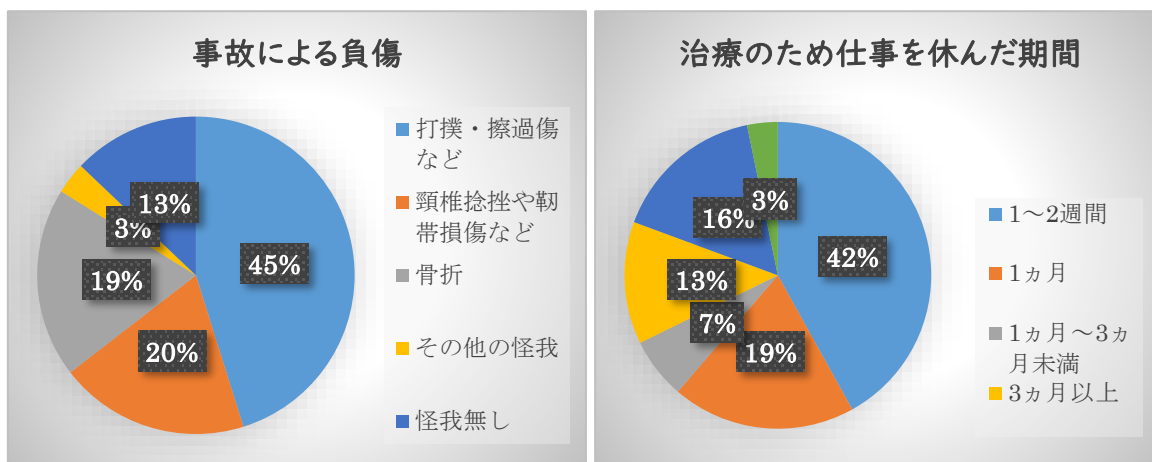
## ウーバーイーツユニオン 事故調査プロジェクト報告書の概要

### 1、調査の期間および手法

今回の事故調査プロジェクトは、2020年1月7日から3月31日までの約3か月間にわたって実施した。今回の調査では、まず、ウーバーイーツユニオンのHPにおいてアンケート(ヒアリングシート)を設け、事故に遭った配達員の方に対してヒアリングシートの様々な質問項目に沿って回答を求めた。その上で、聞き取りを希望する配達員の方には、調査プロジェクトのメンバーが連絡を取り、電話ないしSNSのネット通話などを活用し、事故状況などの詳細な聞き取りを実施した。なお、一部の聞き取り調査については、4月以降に実施している。

### 2、調査結果の概要

寄せられた事故報告の件数は、32件であった。複数の事故を報告した配達員がいたため、回答者数は29人である。なお、うち1名は、本報告書への記載を望まなかったため、本報告書の分析や一覧に含んでいない。そのため、分析に使用した事故報告の件数と回答者数は、それぞれ31件と28人である。



### 3、事故調査から明らかになった問題点

- 配達中の事故に関する、事前の情報提供の欠如
- 配達システムに潜む問題
- 事故時にサポートセンターに繋がらず、事故の相手側とのやり取りも配達員に丸投げ
- 配達員による事故について、一般向けの外部窓口が不透明
- 配達員のアカウント停止
- 傷害見舞金制度の問題点

#### 4、労災保険制度とウーバーの傷害見舞金制度との比較

ウーバーが提供している見舞金では、配達員がその業務で直面する可能性のある災害（労災）に対して、あまりに限定的な補償内容しか設定されておらず、しかも、使いにくい制度になっている。見舞金制度の対象の拡大や補償内容の充実など、抜本的な改善が必要。また、ウーバーのアカウント停止については、少なくとも配達員の事故補償の妨げとならないよう透明性と公平性の確保が必要。

政府は、労災保険制度について、これまでの狭い「労働者」の範囲に囚われることなく、様々な形態で働く人々に対して、その保障措置を広げていくべきである。そして、政府は、プラットフォームワーカーの業務によって利益を上げている企業に対しても、プラットフォームワーカーの健康と安全を守るための責任を果たすよう求めていくべきである。

#### 5、提言

**日本政府に対して：** 現在の労働者災害補償保険法を改正し、その対象範囲を拡大すること。具体的には、同法に労災保険の対象となる「労働者」を定めた条文を新設し、「労務を提供し、その対価を得ている者」など、現行のフリーランスの労働実態に即した対象の定義を行い、適用対象の拡大を行うこと。

**ウーバーに対して：** 傷害見舞金制度の対象・内容・手続きの改善と拡充。対人・対物賠償保険について、示談交渉特約を追加すること。配達員に事故対応を丸投げする現在の対応を改め、配達員との事故に遭った一般の方からの問い合わせに対応する窓口を設置すること、など。